

## 異業種も取り込んだ、共同型ビジネスを展開 ～SCM共同ネットの活動から～

1月26日に開催されたSCM共同ネット研究会（滝沢保男代表）主催の「ICLTトータルソリューション戦略セミナー」。それに先立ち、新規の共同型ビジネスプロセスを形作る新たなプロジェクトが立ち上がった。「次世代共同物流事業プロジェクト」「マーケティング事業プロジェクト」「コンサル・教育事業プロジェクト」だ。

既存のプロジェクトと合わせて、異業種も取り込んだ共同型ビジネスによる新たな物流ビジネスの創出と、物流コスト削減を業界に提起していく。

### ◆システム開発に力点

新たに始まった「次世代共同物流事業プロジェクト」。1月26日に第1回の会議が行われた。プロジェクトリーダーには、元富士物流の若江谷新治氏が就任。SCM共同ネット会員それぞれの問題点と、その解決方法について討論。SCM共同ネットの将来像に必要なシステムについても論議された。

SCM共同ネット研究会の将来像は、中小の物流企業が共同して、新しい商品などを開発し、荷物を創出。会員の全国ネットワークを築き上げ、その物流を構築することだ。全国ネットワークを活用し、大手物流企業とも肩を並べることができる物流網を構築する考え。また、そのネットワークを活用し、既存顧客への提案営業も手がけていく。

しかし、将来像と現状には、まだまだ差があるのも確かだ。同会の会員が持つ問題点として、①エリアごと、地域ごとには強みを発揮できるが全国ネットの対応が取れない、②各企業が運送（トラック）と保管（倉庫）のどちらかに重点が置かれており連携が不十分、③システムが各社ばらばらで共同配送・共同保管を行うのに必要な共有化がスムーズにいかない——などだ。

その問題点を解消するのが本プロジェクト。最終的には大手物流企業にも匹敵するサービス提供を実現、さらに荷主企業には、物流コストの削減と高い物流品質サービスを提供する。

特にポイントをおくのがシステム開

発。同プロジェクトにはシステム開発会社が参加する一方、物流の知識や商慣習については熟知していない面を、滝沢代表やプロジェクトリーダーの若江谷氏、物流不動産の知識を持つイソーコIT部責任者の早崎幸太郎氏らがフォローしていく。

物流の知識をベースにシステム構築を進め、「本当に物流業界の効率化を行える、中小企業にも導入できるコストのシステムを開発していく」と滝沢代表は語る。

既に会員物流企業からは、共同配送に利用できるシステムの開発依頼も舞い込んでいる。上記システムについて、2月2日、5日に複数の会員物流企業とシステム会社の意見交換会も行われた。今後も会合を重ね、物流企業の要望とシステムの完成形を練り上げる。

システムの第一弾が完成すれば、会員物流企業への波及や、さらなる利便性を追及したバージョンアップを進めることが可能になる。

### ◆新規プロジェクトも立ち上げ

異業種も巻き込んだ新規荷物の創出と共同配送ビジネスを実現するため、次世代共同物流事業プロジェクト以外にもプロジェクトが立ち上がっている。

それが「マーケティング事業プロジェクト」と「コンサル・教育事業プロジェクト」だ。

「マーケティング事業プロジェクト」は新規の荷物・商品を開発する際

の市場調査や、販売促進の方法を探っていく。荷主企業との連携を図っていく部門にもなる。また特別会員企業によるECサイトの運営もあり、システム開発や商品開発について、サポートしていく考えだ。

「コンサル・教育事業プロジェクト」は、本格稼働が4月以降になる予定。現在マーケティング、営業、ICT（インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー）、物流、環境、新規事業立ち上げのコンサルや教育ができる人材のデータベースを作成している。

異業種との次世代共同物流事業を立ち上げるには、商品開発や市場調査、販売といった物流以外のノウハウが求められる。それを同会として会員企業にバックアップできる人材を揃え、会員の求心力を増強させる狙いだ。

### ◆イーカーゴのマッチング着実に

1月開催の第9回営業実務者事業プロジェクト推進会議では、「LSS SCM イーカーゴ」の成功事例も取り上げられた。一つは荷物と輸送のマッチング。もう一つが新規事業所立ち上げ時のビジネスフォンのマッチングだ。利用企業が60社になり、常時100件ほどの情報が掲載されるようになった。

こうした成功事例を紹介することで、さらなる、利用企業の増加と、マッチング率の向上を図っていく。

登録内容も様々になっている。輸送や空きトラックの情報だけでなく、物流施設の情報、物販の情報、自社の強みなどなど。具体的には、ホームページの作成、防犯カメラ、太陽光発電機器、LED照明の販売といった情報も入っている。

こういった利用の仕方でも、ビジネスフォンなど、物流とは少々外れるがどうしたらいいか分からず困っている問題点などの解決に役立っている。